



—私たちの獅子舞を見た人が「すごい」と感じて、名張の伝統や文化を好きになってほしい—

南町神事講 獅子神楽保存会 菊山 賢二さん

天狗を演じて22年

私は南町神事講 獅子神楽保存会の一員として、10人の仲間と共に宇流富志禰神社で毎年10月最終の土日に行われる秋祭りでは獅子舞を披露しています。

28歳の時に初めて獅子舞をやらないかと声がかかり、入ってすぐに先輩から「お前は小柄だから飛んだり跳ねたりの天狗をやれ」と言われました。

南町の獅子舞は獅子の他、天狗やひよっとこ・おかめなども登場し、天狗が獅子をからかい、また仲直りするというストーリーを表現します。私はその天狗役をやることになり、今まで22年間ずっと演じてきました。

大変なこともあります。今では、この獅子舞や天狗が好きで好きでたまりませんし、活動を仲間たちとできることを誇りに思っています。

「芸」としての追及

年を重ねるごとに技術は上達していきましたが、毎年やりきったという感覚はあっても納得のいく舞ができたと感じる年はまだ一度もありません。もっと上手く獅子の動きに合わせたのにと、後悔することは毎年のようにあります。

動きを覚えるのと「芸」になるのはまた別で、「人にすごいと思わせるってどういうことだろうか？」という思いが、年を重ねるごとに強くなってきました。

その思いから、自分はもちろん

のこと、獅子やひよっとこなど、メンバー皆で、より高い演技を求めようになりました。

獅子舞をより広めるために

私たちは名張秋祭りだけでなく、皆さんにより獅子舞を知っていたら、地域の夏祭りや市内のスーパーの催しに出演し、フェイスペインクで情報発信するなど、さまざまなPR活動をしています。

中でも、プロに依頼して作った漫画は好評をいただいています。保存会の活動内容や、歴史について読みやすく冊子にし、祭りやイベント時に配布しています。



地元の文化・伝統に愛着を

名張には私たちの他にも、たくさん獅子舞を披露する団体が存在し、それぞれに伝統があります。

私たちが他に負けないよう、より、獅子舞のPR活動に励み、名張秋祭りにも旧町の人だけでなく、市外から転入されてきた人など、もっと多くの人に来てもらいたいですね。

そして、来てくれた人に「すごい」と思われる「舞」を披露したいですね。私たちの獅子舞を見た人が祭りに関心を持ち、名張の伝統や文化に興味を持ってくれたら。今以上にこの名張を好きになってくれたら、とても嬉しいですね。

名張の獅子舞、元は各村々に

江戸時代の名張は49の村に分かれており、その村一つ一つに獅子があったとされています。

戦争時に途絶えたり、後継者不足などで、現在では約20、25の獅子になりましたが、各地域の保存会などが獅子舞を披露しています。

名張の獅子舞は秋

獅子舞というと全国的には正月に悪魔祓い・疫病を追い払うために行うなどのイメージがありますが、名張の獅子舞は秋に市内の各神社で行われます。

これは、名張の獅子舞はその年の五穀豊穡・天下泰平・家内安全を祈り舞いを奉納するという意味があるからです。

名張秋祭り(宇流富志禰神社秋季例祭)

この祭りは約400年前にこの地を納める藤室家から、年に一度の祭りの時だけ民衆も侍の格好をすることが許され、祝いの松明行列を作ることになった事が始まりと言われています。

そして、この祭りは本来跡取りができたことを祝ったもので、お渡りの際「ねんどねんどわーい」という掛け声と共に宇流富志禰神社に向い歩いていきます。その意味は、「その年(年度)に生まれた子のお祝い」がなまじつとされま。神社に到着すると、宮司から祝詞を奉り上げ、獅子舞がその年の五穀豊穡や天下泰平を祈り舞を奉納します。

